

和泉邦安さん ありがとうございます

和泉邦安さん

(ホアン・ゴンザレスさん／メキシコ出身)

1970年に宣教師として来日

1973年より会津若松市在住

1980年 日本に帰化。

氏名を「和泉邦安」とする。

FINE 号外 2022年11月発行 会津若松市国際交流協会

コロナ禍のため、和泉邦安さんご逝去（昨年12月25日）を時間が経ってから知った人も多く、和泉さんへの追悼の言葉が今も寄せられています。メキシコでは、11月1～2日は亡くなった方の魂が戻ってくる「死者の日」です。生前の和泉さんのご遺徳を偲び、心からの感謝を申し上げます。

和泉邦安先生への尊敬と感謝

笹川恵美

(会津若松市出身)

青年海外協力隊メキシコ派遣 OG

東京大学 母性看護学・助産学分野 教員)

昨年末、和泉邦安先生は神様のもとに召されました。半世紀もの長きに渡り、会津に暮らす多くの人々に沢山の愛情を分け与えてくださった和泉先生への心からの尊敬と感謝の気持ちを、この場をお借りしてお伝えたく存じます。

和泉先生は、メキシコから宣教師として1970年に来日、1973年より会津に根を下ろされてきました。或る日、信者さんのお墓周辺の芝生を芝刈り機で刈っていた際に、大きなスズメバチが接近してきたのを避けようとして、芝刈り機が足にあたり、思わぬ大出血と大怪我を負い倒れていたところ、会津の方に助けられた経験があるそうです。その時、「これからは、この命を会津の人々に捧げよう」と心に誓われ、その思いを実現するために、1980年、日本へ帰化されました。このお話を伺ったとき、和泉先生の思いの深さ、決意に感銘を受けましたし、そのようなお気持ち

で会津にいて下さったことに、心からの感謝の気持ちを、もう何度でもお伝えしたいと思います。

和泉先生は、母国語のスペイン語のみならず、日本語、そして、宗教学をスイスで学ばれたご経験もあることから、英語、フランス語と多言語に長けていらっしゃる真の国際人でした。1993年に会津大学が出来てからは、世界中から迎える教員・研究者・留学生に対してカウンセラーとして寄り添い、もうそれは、「会津の三泣き」（①初めて会津に来た人はよそ者に対する会津人のとっつきにくさに泣き、②やがて会津での生活に慣れてくると温かな心と人情に触れて泣き、③そして会津を去る時には離れがたくて三度目の涙を流す）で有名な会津で、外国人を迎えるにあたり、その優しさ、柔らかさ、大らかさで、どれだけ多くの人々を支えてきたかと思います。その恩恵をあずかった一人です。

私と和泉先生の出会いは、2006年になります。メキシコ人の元夫（残念ながら離婚してしまいましたが…）と一緒に会津で両親のもとに身を寄せている時期でした。日本語を話せず、家族とのコミュニケーションも十分に取れない元夫は、日に日に元気がなくなり、傍にいる私も、どのように彼に寄り添っていけばよいのか分からず、夫婦で泣いてばかりの時でした。藁にもすがる思いで国際交流協

会に電話をかけ、ご紹介頂いた和泉先生に初めてお会いした時から、どれだけ癒され、そして勇気をもたらしたことか。会話をする前から、言葉にしなくても、和泉先生の「あなたの全てを受け入れます」という思いが、優しく私たちを包み込んでくれました。その後、何度も元夫に会いに来てくださり、お話を聴いてくださったお陰で、彼は本当に元気になりました。きっと、同じように和泉先生に救われた方々は、沢山いらっしゃると思います。和泉先生との思い出を語りつくすことはできませんが、会津人の一人として、やはり感謝の言葉しか思い浮かびません。会津を愛して下さり、そして、会津の人々と共に歩んで下さり、本当にありがとうございました。

親愛なるファンチョおじさんへ

長谷川ジョシー

(メキシコ出身)

会津若松市 竹田総合病院医療通訳)

(和泉邦安先生-ファン・ゴンザレス先生 あなたは私を本当の姪のようにかわいがってくれました。私もあなたを本当の家族のように思っていました。そして、ファンチョおじさんという愛称で呼ぶように言ってくれました。)

2021年12月25日、あなたは天国から、あなたが思うより早い呼び出しを受けてしまいました。地球の平和と全世界の住民の幸福、特にこの美しい会津の住民の幸福を望んでいたあなたが、まだこの世界でやりたいこと、やり残したことが沢山あると私はよく知っています。

あなたは約50年という長い時間、会津を見守り続けてくれました。この地はあなたの第二の故郷になっていました。会津の地も、その美しさと人々の優しさと、素朴さであなたを照らしました。日本のわびさびの素晴らしさを教えてくれたこの土地にあなたはとどまり、ここで骨を埋めることに決めたと私に笑顔で教えてくれました。

オレゴン州グresham市にあった富士通マイクロエレクトロニクス社の同僚であり、親愛なる友人である田中秀夫氏に紹介され、夫と共に初めてあなたに会った時、檜の木

のようにどっしりとして落ち着いた、頼りがいのある人だと感じました。その印象は、今もずっと変わりません。私がアメリカで夫と出会い、夫婦二人で会津に転勤になったとき、田中さんは、あなた（和泉邦安氏 - ファン・ゴンザレス氏）はメキシコ生まれで、会津に日本人として根付いているので、恐れるものは何もないと言っていました。あなたは会津若松市に住んでいて、アメリカやメキシコから遠く離れたこの土地に私たち夫婦が来たことをとても歓迎してくれました。初めて会った時、とても親切に私たちメキシコ人の習慣と日本人の習慣の違いを詳細に説明してくれました。

日本の気候は「春、夏、梅雨、秋と長い冬があるんだよ」とおちゃめに笑って教えてくれたのが印象的です。メキシコには梅雨がないので、6月に初めて梅雨を体験した時、おじさんの言葉を思い出してなるほどと笑ってしまいました。他にも6月と10月の衣替えの習慣等、日々の暮らしの気を付けることを丁寧に教えてくれました。長い冬は思ったほど寒くなかったよ、雪囲いや雪片しをしていれば体が温まるからね！スキーを学べば、冬はもっと楽しくなる。など、会津特有の大変なこともユーモアを交えて教えてくれたのです。磐梯山は、春は桜、夏は緑さわやかなど、秋は赤みを帯びた紅葉が美しく、冬は雪の白さとぬくもりがあり、スキーやスノーボードを楽しむ観光客が多く、天然温泉も豊富。その資質を楽しむ多くの家族のための歴史と冒険に満ちた会津の素晴らしいモンタニア（磐梯山）。ファンチョおじさんは語ってくれましたね、多くの人が亡くなった噴火からちょうど100年後の山、爆発によって埋もれた集落、その結果、猪苗代湖、桧原湖、五色沼などの湖が形成され、多くの観光客が一年を通して訪れることができる場所。COVID-19の期間中、この地域の住民や福島県とその周辺からの複数の訪問者が最も多く訪れた地域であり、私たちはその自然に囲まれ、心身ともに健康であると感じることができます。また、天気が変わると、会津住民の服装や生活様式も変わると説明してくださいました。ファンチョおじさんあなたは会津磐梯山のように生きたね…。

あなたは日本人が感じる愛と尊敬を私に植え付けてくれました。それはあなたが深く認識した理由です。なぜならメキシコ人も同じであり、私たちは自分自身を大事にする前にお互いを愛し、世話をすると同じように尊重している

からです。あなたから学んだその深い気持ちは、私がこの国で 33 年間もの長い間生きていくための知恵を授けてくれました。この国の人々と、平和で穏やかな生活のためにますます増加している外国人居住者を愛し、尊重しています。私たちはいつもあなたを偉大な魂の兄弟、真の友人として覚えています。あなたは常に子供の魂を持っていた男でしたが、私たちに友情、尊敬、愛を与えてくれました。あなたの心は扉の開いた家でした 人生のある困難な時期に、私たちは出口を見つけるのを手伝ってくれる誰かを探しました。そしてあなたが私たちに与えた力と信仰の言葉は、あなたがいつも私たちのそばにいました。あなたは一日中魂の友であり、到着するたびに笑顔でお祝いの抱擁をし、オープンなフレーズでそのような素晴らしい真実を語りました。人生のある困難な時期に、私たちの出口を見つけるのを手伝ってくれる人でした。あなたが私たちに与えてくれた力と信仰の言葉は、あなたがいつも私たちのそばにいるという確信を私たちに与えてくれました。私があなたに話していることすべてを言う必要さえありませんが、私には素晴らしい友達がいるような気がします。あなたは会津のこの地域に住む多くの外国人にとって模範であり、終わりのないサポートであり、永遠に私たちと一緒にいるでしょう。安らかにフアンチョおじさん！

和泉さんへの感謝

会津若松市国際交流協会
事務局長 小林 真司

和泉先生は、協会が設立された 1996 年から、会津の在住外国人のパイオニアのおひとりとして、さまざまなご協力いただきました。市長との意見交換会などでは貴重な意見を伝えていただくなど、現在 900 名近く住む在住外国籍市民の先頭を走って来られました。当協会にも設立当初から関わっていただき、令和元年まで理事としてもご活躍いただきました。

お会いした当初から、ずっと変わらない慈愛に満ちたまなざしで、当協会や、会津に住む外国出身の皆さん、市民のみなさんを見つめ続けてこられたと感じております。和泉先生のお気持ちを心に抱きながら、会津の国際交流を続けていきたいと思えます。これまで本当にありがとうございました。